

事業レビュー

計測器事業

計測器事業は、グローバルに進行する次世代ネットワーク(NGN)構築に向け、最先端計測ソリューションを投入するとともに、従来からの柱であるワイヤレス計測ソリューションをさらに強化し、アンリツグループを力強く牽引する収益基盤であり続けます。

業界動向と当期のレビュー

当社のコア事業領域である通信市場では、IPTV^(注4)などのブロードバンドサービスの普及に伴うコアネットワークの超高速大容量化、光アクセスネットワークの建設など、NGN構築に向けた計測器需要が拡大しています。また、世界的な携帯電話サービス加入者の増加や基地局網の整備も、堅調な計測器需要をもたらしています。

当期は、北米の通信事業者から基地局用ハンドヘルド計測器の大規模な受注を獲得したほか、第3世代(3G)・3.5世代(3.5G)携帯端末開発用計測器の売上が欧米で拡大しました。また、新たに市場投入した超高速通信機・デバイス用計測器、光アクセスネットワーク建設用計測器でNGN関連の初期投資をとらえました。さらに、2005年8月の買収により子会社化したNetTest社(現Anritsu A/S)を当期から通期で連結した効果もあり、計測器事業の売上高は728億82百万円(前期比11.9%増)となりました。

一方、営業利益は、売上拡大などによる増益があったものの、サービス・アシュアランス分野の受注拡大が想定より遅れたことにより収益が悪化し、当事業全体としては前期比10.8%減の47億17百万円となりました。

(注4) IPTV：IPネットワークを利用したテレビ放送サービス。

計測器事業の「利益ある成長」戦略

計測器事業は、「ワイヤレス計測」、「汎用計測」、「光・デジタル・IP計測」、「サービス・アシュアランス」の4つの製品分野を持ちますが、中期経営計画の達成に向けて、右図のとおり3つの市場別事業領域を意識した取り組みを実践しています。特に、多様な技術を要求されるNGN関連事業領域には、製品分野の枠を超えて総合的計測ソリューションを提供

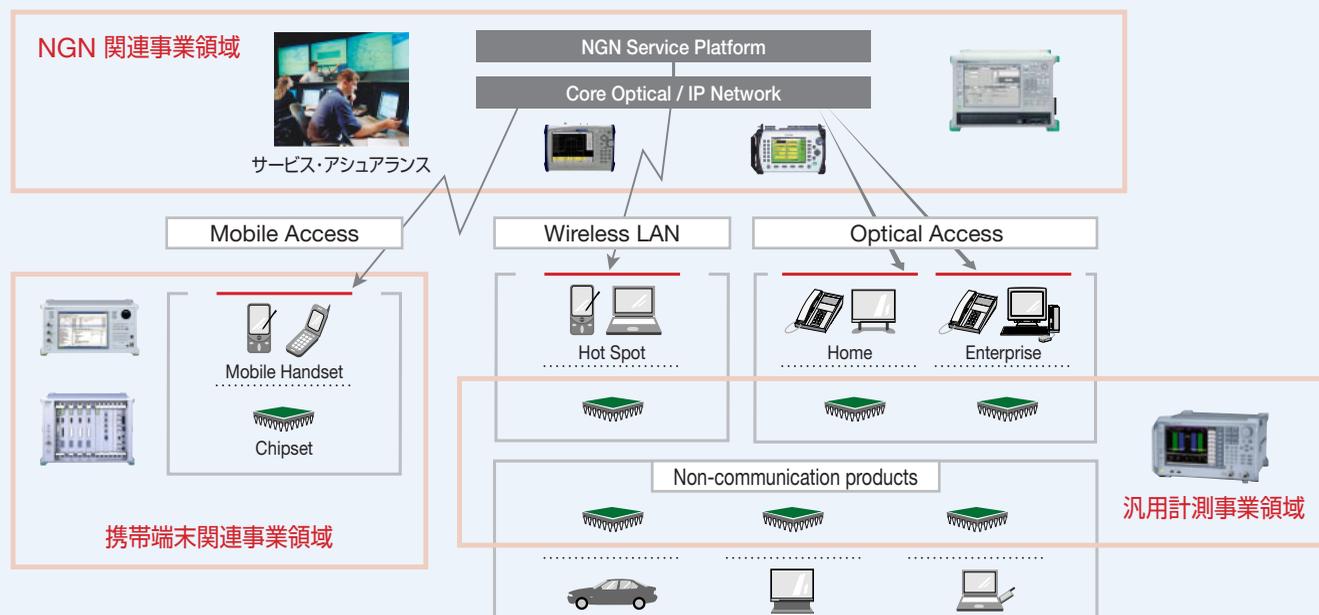
することにより、高い競争力を構築していきます。携帯端末関連事業領域では、世界最高水準の技術力で、引き続き次世代の通信規格の策定に参画していきます。さらに、蓄積した計測技術を情報家電、自動車の電子化などの汎用計測事業領域にも応用し、安定的な事業構造を構築します。

• NGN関連事業領域

通信機器・デバイスなどの開発・製造に必要な計測器の分野では、ブロードバンド化の進展に伴い、コアネットワークは40Gbit/sという超高速化が求められています。この分野の計測器開発には最先端技術が必要とされ、非常に参入障壁の高い分野です。当社は超高速デジタル計測技術、光計測技術を用いた世界最高性能の計測器を市場投入し、さらに継続的な機能強化による差別化に取り組んでいます。また、光ファイバー通信、3G、3.5G、WiMAX、デジタル放送など多様化するブロードバンドアクセスネットワークの建設需要に対しては、卓越した小型パッケージング技術を活かした高性能ハンドヘルド計測器を多数取り揃えています。当社はこれら高付加価値計測器で、世界トップクラスのマーケットシェアを保持していますが、グローバルに広がる販売ネットワークにより拡大する需要をとらえ、さらなる収益の拡大を実現させます。

ネットワークのサービス品質を計測するためのサービス・アシュアランスは、サービス品質に応じた加入者サービス料金体系を構築しようとする通信業界において、新しい成長事業領域です。当社は、欧州の大手通信事業者を中心に、フレキシブルかつユーザーフレンドリーな先進的ネットワークモニタリングシステムなどを提供しています。今後は、各地域で強化した通信事業者専門営業チームの活動により、売上高を拡大し、収益の改善を目指します。

計測器事業の「利益ある成長」戦略:3つの重点事業領域



- 携帯端末関連事業領域

当社は、リーディングカスタマーとの密接な関係により蓄積した技術を具現化した計測器を、グローバルに広がるカスタマーサポートとともに提供することにより、3G、3.5G 携帯端末・チップセットの開発用計測器で、デファクトスタンダードの地位を保持しています。今後は、欧米で依然堅調に推移する3G、3.5G 関連開発投資を確実にとらえるとともに、次世代の移動通信方式 (WiMAX、LTE) に向けた新製品開発に注力します。これら最先端技術への挑戦により、携帯端末関連事業領域で引き続き業界トップの地位を堅持するとともに、高付加価値事業の拡大を図ります。

- 汎用計測事業領域

当社は、マイクロ波・ミリ波に至る高周波計測技術を保有し、コア事業領域である通信用計測器に応用しているだけでなく、無線LAN、Bluetooth®(注5)、デジタル放送などの幅広いデジタル無線解析技術とともに、多様な電子部品やモジュールの開発・製造に用いられる汎用計測器として展開

しています。通信市場とは設備投資サイクルが異なる自動車の電子化や情報家電なども含む汎用計測事業領域で、ビジネスを拡大することにより、計測器事業構造の安定化も推進します。

(注5) Bluetooth®:携帯情報機器などで数m程度の機器間接続に使われる短距離無線通信技術のひとつ。

2008年3月期の見通し

NGN関連事業領域を中心に、携帯端末関連事業領域や汎用計測事業領域でも重要顧客との密着度を高めた研究開発活動を推進し、市場ニーズにマッチした高付加価値製品の投入を継続します。また、中南米やアジアなど、成長性の高い市場の販売強化に取り組み、グローバルに事業を拡大させていきます。一方、サービス・アシュアランス分野は、売上の拡大を図り、固定費削減も含めて、収益性改善を実行します。これらにより、2008年3月期の計測器事業の売上高は765億円(当期実績の5.0%増)、営業利益53億円(同12.3%増)を計画しています。

情報通信事業

情報通信事業は、アンリツグループの強みであるIPネットワーク技術を活かした独自のソリューションを提供し、NGNの発展に貢献していきます。

業界動向と当期のレビュー

当事業の約7割を占める官公庁市場では、河川などの映像監視システムやテレメータシステムなど、特に防災のためのインフラ整備として公共情報システムの需要が高まっています。また、民需市場では、IPネットワークの品質(QoS: Quality of Service)の確保に威力を発揮する帯域制御装置が注目されています。

当期は、雇用構造改革による固定費の圧縮、収益性の高い事業への経営資源集中、分社化による経営責任の明確化など、抜本的な経営構造改革を断行しました。その結果、従来事業の売上は大きく減少し、売上高は60億10百万円(前期比17.0%減)となりましたが、スリム化による固定費削減やコストダウンなどが功を奏し、営業利益は1億45百万円の黒字(同21億18百万円の改善)を達成しました。

情報通信事業の「利益ある成長」戦略

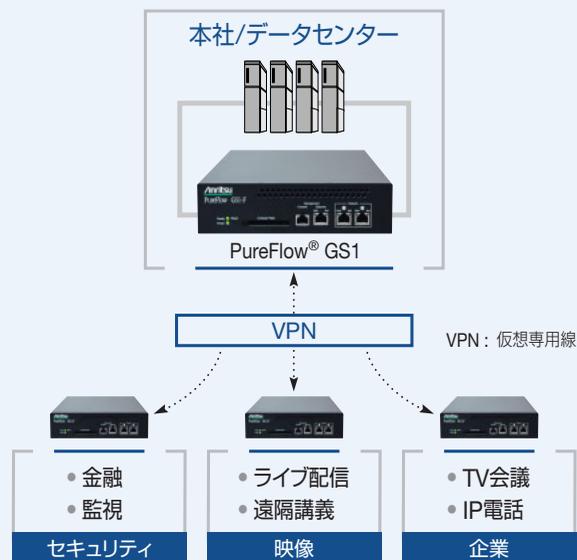
当事業は、これまで蓄積された技術を活かし、映像監視・配信システム、IPアクセス機器、帯域制御装置にフォーカスし、さらなる収益性の改善に注力します。

官公庁向け事業では、防災インフラ需要を取り込んで売上・利益を確保するとともに、民需向け事業では、システムインテグレータとの協業などにより、特に企業内IPネットワーク向けに帯域制御装置の売上を拡大させます。これらの取り組みによって、売上・利益を着実に成長させ、アンリツグループの事業の柱のひとつに育てていきます。

2008年3月期の見通し

当事業は、IPネットワークソリューションの競争力強化や、システムインテグレータとの協業関係強化などにより民需市場を積極的に開拓します。

2008年3月期の当事業の売上高は65億円(当期実績の8.1%増)、営業利益は黒字を維持するものの、経営基盤の強化のための新製品開発や顧客サポート力強化のための投資により、1億円(同31.4%減)を予定しています。



産業機械事業

産業機械事業は、グローバル展開の強化により成長路線を確固たるものとし、今後もアンリツグループの安定的な収益の柱のひとつを担っていきます。

業界動向と当期のレビュー

当事業の主な製品である重量選別機、X線異物検出機、金属検出機は、約8割が食品、残りが薬品や化粧品などの生産・検査設備として使用されています。世界的に食品の安全・安心に対する関心が高まっており、製品の加工工程で混入した金属、プラスチックなどの異物を高精度かつ高速に検出できる当社製品の需要は堅調に推移しています。

当期の前半は、原油価格の上昇の影響により食品業界の検査設備投資が抑制され受注が低迷していましたが、その後、機能強化した新製品の投入効果や食品メーカーの設備投資意欲の持ち直し、アジアでの重量選別機の受注伸長などにより、売上高は前期並みの122億95百万円(前期比0.8%増)となりました。一方、営業利益は、ステンレスなどの金属原材料の高騰を生産効率の向上で吸収しきれず製品原価率が悪化し、同1億79百万円減の6億8百万円となりました。

産業機械事業の「利益ある成長」戦略

昨年、欧州で権威のあるデンマーク食肉検定協会によるX線異物検出機のコンペティションが行われ、最終的にアンリツ製のX線異物検出機が最高性能であると認められました。この事実は、欧州という世界最大の食品検査市場に地位を築く上で重要な一歩です。欧州は順調な経済発展を背景に食品検査設備に対する投資が活発になっており、引合いも急激に増加しています。今後、日本国内の高いシェアを



X線異物検出機 KD7405AW

維持しながら、アジア市場での競争優位性強化や、欧米市場への本格参入により、海外売上高比率(当期は約25%)のさらなる拡大を目指します。また、生産革新と事業効率の向上を継続し、営業利益率の改善を目指します。

2008年3月期の見通し

当事業は、高付加価値化製品にプロダクトミックスを変更することにより収益を改善するとともに、海外市場へ積極的に展開することにより事業の拡大を目指します。

2008年3月期の当事業の売上高は125億円(当期実績の1.7%増)、営業利益は7億円(同15.1%増)を予定しています。